

当別町第7次総合計画 団体ヒアリング結果【要約版】

Ⅱ.当別町の特徴・強み

Ⅱ-① 貴団体の立場から見て、当別町の強みや魅力はどのような点だと思いますか。

当別町の強みとして、札幌近郊という利便性と豊かな自然環境、ゆとりある住環境が共通して挙げられています。また、道の駅やロイズ、IKEA ポップアップストア、北欧文化、歴史、農村景観、教育環境など、他地域と差別化できる地域資源も評価されています。加えて、住民同士のつながりや支え合いの文化も魅力として認識されています。

Ⅱ-② 現在の当別町において、特に重要だと感じている課題は何だと思いますか。

人口減少と若年層流出が最も大きな課題として認識されています。あわせて、北海道医療大学移転後の町のあり方や跡地活用、商店街活性化、交通利便性、公共施設の老朽化、情報発信力の不足、人材育成、町のブランドや方向性の不明確さなども重要な課題として挙げられています。全体として、今後の町の軸や特徴を明確にする必要性が共有されています。

Ⅲ.北海道医療大学の移転について

Ⅲ-① 北海道医療大学の移転は、当別町にどのような影響を与えると考えていますか。

北海道医療大学の移転は、地域経済、地域活力、若者の存在感の面で非常に大きな影響を与えると認識されています。具体的には、アパート空室の増加、学生アルバイトの減少、商業・交通・JR利用・税収への影響、地域全体の活気低下などが懸念されています。また、福祉、教育、ボランティア、シビックプライドなど社会的側面への影響も大きいと見られています。

Ⅲ-② 北海道医療大学の移転は貴団体にどのような影響を与えると考えていますか？

団体ごとに影響の大きさは異なりますが、特に、アパート経営、商業、交通、スポーツ、文化、福祉、イベント運営などでは、利用者や担い手、ボランティア、アルバイトの減少が懸念されています。一方で、直接的な影響が限定的な団体でも、町全体の活力低下や関係人口減少への影響を懸念しています。

Ⅲ-③ 医療大学移転を踏まえ、当別町としてどのような対応や取組が必要だと思いますか。

最も多く挙げられたのは、大学跡地利用の早期具体化です。企業誘致や交流拠点整備、スポーツ・文化施設、子育て施設、日本語学校や福祉ロボット関連企業の誘致など、多様な活用案が示されています。また、空きアパート活用、交通基盤維持、移住定住促進、観光施策強化なども必要とされています。移転を危機としてだけでなく、新たなまちづくりの契機として活かす視点が共有されています。

Ⅲ-④ 10～20年後、当別町はどのような町になっていてほしいと考えますか。

若者や子育て世代が住み続けられる町、安心して暮らせる町、世代を超えて支え合える町を望む声が多くありました。また、人口減少の中でも生産年齢人口や若者を一定程度維持し、地域の活力を保つこと、暮らしやすさや災害への強さを備えることも重視されています。さらに、当別町らしい明確な方向性やブランドを持ち、新しい挑戦を受け入れる持続可能な町が期待されています。

Ⅳ.活動分野におけるまちづくりの方向性

Ⅳ-① 貴団体の活動分野（まちづくり分野）において、現在どのような課題があると感じていますか。

各分野に共通する課題は、担い手不足や高齢化の進行、人口減少による活動基盤の縮小です。加えて、分野ごとに、事業承継の難しさ、観光や地域資源をつなぐ仕組みの不足、施設・設備の老朽化、交通や住宅需要の変化への対応といった課題が挙げられています。また、地域活動や学生参加の広がりが限定的で、新たな参加者を巻き込む仕組みや、分野横断で連携できる体制づくりも求められています。全体として、個別分野の課題の背景には、人材確保の難しさと持続可能な運営体制の弱さがあるように見られます。

Ⅳ-② その分野において、今後どのような取組や方向性が必要だと思いますか。

各分野が単独で取り組むのではなく、連携と発信を強化しながら持続可能な活動基盤を整えていくことが必要だと整理できます。具体的には、農業ではスマート農業や新規就農・第三者継承の推進、商工分野では関係機関と連携した事業承継支援、観光分野では DX を活用した周遊促進、住宅分野では社会人やファミリー層を含む新たな需要創出が求められています。また、学生・高校生・地域住民など多世代が関わる機会を増やし、地域活動やスポーツ、文化活動への参加の裾野を広げることも重要とされています。全体としては、人材育成、分野横断の連携、情報発信の強化を通じて、新たな担い手や関係人口を広げていく方向性が必要だと考えられます。

Ⅳ-③ その分野の発展のために、町としてどのような役割が求められると思いますか。

町には、方向性を明確に示すこと、関係者をつなぐこと、横断的な連携体制を整えること、必要な支援や施設整備を進めることが求められています。また、行政が多様な意見を受け止めて調整し、若者や外部人材の知見も取り入れながら、まちづくり全体を戦略的に進める役割が期待されています。

Ⅳ-④ 今後、貴団体として新たに組みたいことや、強化したい活動はありますか。

各団体は、次世代育成や需要開拓、新たな価値創出に向けた活動を強化したいと考えています。具体的には、新規就農や第三者継承、創業支援、教育旅行や企業研修の受入れ、伝統文化の継承、空室の多用途活用、スポーツを通じた交流促進、道の駅機能強化、保護者ネットワークの維持などが挙げられています。

IV-⑤ 行政と連携して取り組めること、または連携したい取組があれば教えてください。

行政との連携テーマとしては、地産地消、イベント運営、観光資源の一体発信、周遊導線改善、学生と地域住民の交流づくり、健康づくり、公共交通利用促進、空室活用、子育て支援などが挙げられています。全体として、官民が役割分担しながら、分野横断で実践していく意向が示されています。

IV-⑥ 行政に期待する支援や役割があれば教えてください。

行政には、町の方向性の明確化、継続的な財政支援、人材確保支援、施設整備、制度設計、丁寧な情報発信、民間意見の施策反映などが期待されています。分野別には、農業支援、観光推進、スポーツ施設改修、公共交通支援、空き家・空室対策、教育・子育て支援の強化が求められています。

IV-⑦ 当別町のまちづくりについて、特に重要だと思うことがあれば教えてください。

最も重要とされているのは、当別町としての明確な軸や特徴、方向性を持つことです。その上で、人口減少への現実的対応、生活基盤の維持、若者や学生との関わりの継続、行政・住民・企業・団体の当事者意識と連携、歴史や文化を活かした町のアイデンティティ形成が重要とされています。総花的ではなく、重点を明確にした戦略的なまちづくりが求められています。